令和元年度　新潟市立図書館施策・事業評価シート

◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。
◆館の重点評価項目は、豊栄図書館が重点的に取り組んだ事業。

中心図書館名：　豊栄図書館

区分	施策・事業名	概　要	実施結果	評価		
				自己評価	外部評価	
ネットワークを活かした課題解決型図書館	**◇全館共通評価項目** 課題解決のためのレファレンスサービスの充実	・市民に身近な課題解決のためレファレンス（調査・相談）サービスを充実させ、迅速かつ的確な情報提供を行う。	レファレンス件数（所蔵調査含む）は目標値には届かなかった。 ・レファレンス件数　7,804件	・レファレンスや所蔵調査の件数は目標値を若干下回ったがおおむね目標は達成した。 ・レファレンスを迅速に対応できるよう専門研修等に参加し、職員のスキルアップに努めた。	3　大変評価する。56% 2　ある程度評価する。44% 1　評価できない。0%	・多忙の中研修参加は大変だと思うが、ネット情報に頼りがちな現代に図書館の豊富な資料を大いにPRしてほしい。 ・利用者にとって大切なサービスであり、速さも大切だが、質問の主旨を的確に把握する初期対応も大切。これからも充実に期待する。 ・レファレンス機能をもっとPRすべき。例えば県立図書館のように専門コーナーを設置するとか。 ・依頼に対し、たくさんの資料を探してくださり感謝している。 ・件数は目標値を下回ったとは言え、前年度よりは増加しており、職員研修の充実の成果が表れていると考える。 ・レファレンスの評価を件数で考えるのではなく、相談者がいかに満足したかが一番のポイントだと考える。随時簡単な評価をしてもらう事などでレファレンスが充実していたかどうかを判断する方法を模索してほしい。
	◆館の重点評価項目 多様な利用に応じた図書館サービスの提供	・公民館・関係機関等との連携及び資料提供を行う。	北区の公民館・関係機関等の事業に合わせて連携及び図書館資料提供を行った ・ゆりかご学級 ・とよさか発異文化への旅 ・北地区公民館各種イベント ・ビュー福島潟各種イベント ・各種展示他	図書館に隣接する地区公民館に事業の講師として出向したり、講座内で参加者に対して本の紹介を行うなど直接的な働きかけを行った。またビュー福島潟や北区郷土博物館等といった、より幅広い組織との連携を図ることができた。今後も、図書資料の提供を行い、読書活動の振興や図書館利用のＰＲを行う。	3　大変評価する。44% 2　ある程度評価する。56% 1　評価できない。0%	・今後も公民館等の事業と交流し、図書館が身近な存在であることをPRしてほしい。 ・街歩き企画などと連携できないか一考いただきたい。 ・積極的なPRが必要。 ・図書館の利用の啓発のために公民館などと広く事業を連携してほしい。 ・幅広い連携の実施により、多様な図書館サービスが提供できた。積極的な取組姿勢に好感が持てる。 ・現存のグループへの働きかけも勿論大事だが、図書館側からもっと積極的なアピールをすることも必要。
特色ある地域づくりに寄与する分権型図書館	**◇全館共通評価項目** 地域資料の体系的な収集と活用	・各区を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を行う。	・北区を中心とした郷土資料，行政資料の収集に努めた。豊栄図書館では福島潟関連資料，松浜図書館では水俣病（熊本含む）関連資料の収集に力を入れている。 ○　Ｈ２９年度蔵書冊数　11,997冊 ○　Ｈ３０年度蔵書冊数　12,334冊 ○　Ｒ1年度蔵書冊数　12,691冊	・北地元出版社の郷土資料を積極的に収集した結果、利用は堅調に推移している。購入できる出版物の他に、自治体や文化施設が制作したパンフレット・リーフレットも今後も積極的に収集している。展示等で活用し、隠された魅力に光を当てることで利用増につなげたい。 ・調査・相談業務のうち、郷土に関する事柄は全体の2割ほどある。行政資料も含め、今後も有用性を判断しながら収集・整理を進める。	3　大変評価する。44% 2　ある程度評価する。56% 1　評価できない。0%	・蔵書はたくさんあるのでマンネリを打開するために時々入れ替えをしてはどうか。　・図書購入予算が限られた中で、地道に地域に根差した郷土資料等の収集に努めたことは大いに評価する。 ・地域資料は個人では入手しにくいので、図書館利用で多くの資料を手にすることができて非常に助かっている。今後も収集・整理に力を入れてほしい。
	◆館の重点評価項目 地域の声を反映した図書館運営	・図書館協議会を開催し，図書館の事業についての理解と関心を深めていただくとともに，話し合われた内容を図書館の運営に活かす。	図書館協議会を年2回開催 ・第1回　令和元年7月2日（火）開催 ・第2回　令和元年11月28日（木）開催 ・「図書館へのたより」受理件数9件 （「市長への手紙」2件含む）	・図書館協議会で委員の皆様から忌憚のない意見をいただくことができた。 ○　地区図書室のあり方 ○　広告事業　等 ・「図書館へのたより」など利用者の意見をできるだけ尊重し、改善できるものは改善した。 ○　利用者への対応　等	3　大変評価する。56% 2　ある程度評価する。44% 1　評価できない。　0%	・資料の説明はできるだけ短くして委員の意見を言う時間を多く取ってほしい。一人一人の委員の意識も高くなる。 ・地域住民の声を積極的に取り入れ、改善に繋げた点は評価できる。協議会の意見も反映させた事業運営の継続を期待する。 ・一般利用者の意見を多く取り入れてほしい。その為には役職での委員ではなく、公募委員に多くの方が参加できるような敷居の高くない協議会作りを作ってほしい。
子どもの読書活動を推進する学・社・民融合型図書館	**◇全館共通評価項目** 子どもの読書環境の整備	・ブックスタート事業を継続する。 ・赤ちゃんタイムの利用を促進する。 ・うちどく（家読）を推進する。	・ブックスタート事業　368人に実施　参加率約85.5%（新型コロナウイルス感染拡大防止措置のため豊栄健康センター1回、北地域保健福祉センター1回中止） ・うちどく（家読）読書ノートの配布点数660点（ぬりえ含む）	・ブックスタート事業では乳幼児期から読書が身近に感じられるきっかけづくりを継続している。保護者からは好意的な意見が聞かれ、約85.5%の参加率となっている。 ・うちどく（家読）読書ノートの配布回数を年4回に増やした。学校図書館訪問時にうちどく（家読）普及への協力を依頼し、子育て世代の親子も土日を中心に多く図書館を利用している。	3　大変評価する。56% 2　ある程度評価する。44% 1　評価できない。　0%	・ブックスタート事業、うちどく読書ノートの配布はどちらも参加者から喜ばれているので継続を期待する。 ・ブックスタート事業の有効性はのちに現れる。親子の利用に繋がっている事業であるので継続を希望。 ・ブックスタートを知らない人もいるので紹介する展示もあるとよい。乳幼児の将来の感性を育むためにも更に工夫して取り組んでほしい。 ・ブックスタート事業の定着状況・参加率の高さは児童健全育成における図書館の実践活動として、高く評価する。 ・コロナ禍で難しい状況ではあるが、より魅力のある開放的な「おはなしのへや」と「子どもブース」の利用を模索してもらいたい。
	◆館の重点評価項目 ・学校図書館支援センター事業 ・子どもの読書活動推進につながる事業等の実施	・学校図書館支援センターが，学校・地域・関係機関と連携し，学校図書館の活用がさらに活性化されるよう取り組みを進める。 ・職員・ボランティアによる「おはなしのじかん」をはじめとする各種事業等の実施。	・学校図書館支援センターによる学校図書館訪問（78回）及び業務相談（473件）等を実施した。 ・おはなしのじかん（職員・ボランティア），わらべうたのじかん，夏休み事業（一日子ども図書館員）を実施した。 ○　おはなしのじかん参加者数　543名 ○　わらべうたのじかん参加者数　24名 ○　一日子ども図書館員参加者数　6名	・各種支援により、学校図書館は着実に「読書センター」「学習センター」「情報センター」の役割が果たされていると考える。令和2年度より学校図書館支援センターの組織が中央図書館に移行となったが、引き続き学校への支援や相談業務を実施している。 ・おはなしのじかんは参加者には好評である。0～2歳の参加は増えつつあるが北区全体の参加者は年々減少傾向にある。令和２年度より新潟市立図書館全館のおはなしのじかんで使える共通スタンプカードを導入する。リピーターや新規参加者を獲得したい。	3　大変評価する。44% 2　ある程度評価する。56% 1　評価できない。　0%	・全館のおはなしのじかんで使える共通スタンプカードは非常に良い。これからもこのような工夫を取り入れてリピータを増やしてほしい。 ・学校図書館の充実が定着しつつあるが、これからさらに予算が厳しい方向になると思うが、子どもへの読書活動支援のために支援を継続することを期待する。 ・学校図書館に対する各種支援の取組は子どもの読書活動の推進に大いに役立っている。 ・目標ばかりにとらわれることなく、着実に問題を取り上げ、学校図書館支援センターの知識とノウハウで支援していくことが大切。 ・学校図書館支援の実践の積み重ねは、組織改編後にも好影響を及ぼす基礎を確立したと考える。「おはなしのじかん」の活動充実を期待する。
市民参画と協働を推進するパートナーシップ型図書館	**◇全館共通評価項目** ボランティアや教育機関・民間団体等との協働	・ボランティア・教育機関や民間団体等と一緒に事業を行い、市民との協働を推進する。	・ボランティアとの協働の取組実施 おはなしのじかん，夏のおはなし会，夏のふしぎなおはなし会，夏のスペシャルおはなし会，冬のおはなし会，冬のふしぎなおはなし会，冬のスペシャルおはなし会，わくわく体験夏まつり，石塚さんの昔ばなしを楽しむ会，大人のためのおはなし会，わくわく読書会，小さな朗読会 ○　ボランティア活動者数（のべ人数）　212名	・ボランティア団体との協働は予定どおりに実施できた。共催事業は定着してきている。参加者からもおおむね好評。 ・書架整理・資料修理等は堅調に推移している。今後も、講座や広報等で新しい参加者を募り、ボランティア活動全体の活性化を図りたい。	3　大変評価する。78% 2　ある程度評価する。33% 1　評価できない。　0%	・ボランティア入門講座の開催はボランティアの若返りや参加人数の増加に反映されると思うので、これからも継続して開催してほしい。 ・大切な事業なので続けることに意味がある。その時々にできることを、できる形態で実施してほしい。 ・ボランティア団体との協働は地道に努力が重ねられるが、新規ボランティアの活用など活動の活性化や今後を見据えた協働のあり方に期待をする。　・「朗読会」は今後も継続するならば、参加者の募集の仕方を再考した方がよい。学校や自治体への働きかけなどもっと子ども達が奮って参加できる方法を。職員が参加するのは範囲が狭すぎる。
	◆館の重点評価項目 ・ボランティア養成講座の実施 ・ボランティア交流会の実施	・おはなし（ストーリーテリング）ボランティア入門講座を実施する。 ・ボランティア交流会を実施する。	○豊栄図書館連続講座おはなし（ストーリーテリング）ボランティア入門講座（全6回）参加者数　48名 ○ボランティア団体交流会　参加者数　8名	おはなし（ストーリーテリング）ボランティア入門講座を実施した。連続講座であったが、参加者全員が全6回出席し、意欲的に講座に参加していた。ボランティア交流会では北区図書館で活動しているボランティア全グループが参加し、活発な情報交換が行うことができた。講座については、今後他区とも調整しながら開催を検討し、ボランティアの裾野を広げて行きたい。	3　大変評価する。67% 2　ある程度評価する。33% 1　評価できない。　0%	・その時々でできるつながり方考え合いながら続けていただきたい。 ・講習や他団体との交流を通し、様々な意見や改善点が見えてくると思う。より多くの方が参加できるよう勧めてほしい。 ・新規ボランティアの養成は成果が見えてきており、評価できる。団体間の交流や情報交換により、更なる活動の活性化を期待する。 ・新潟市立図書館の管轄下でなくても、各学校や保育園などで読み聞かせ等のボランティアをしている方はたくさんいる。そういう方達も含め一堂に会して活動を発表し合う場を設けたら、他のグループの特色等も見えて参考になると思う。